



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 139 Oct. 1. 2014

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCB[®] Ⅱ

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



ピアクシー峰(6090m) 7月4日 午前8時30分 全員初登頂を果たす

目次

○第12次インドヒマラヤ登山隊 ピアクシー峰初登頂報告 星 一男	1	○同好会コーナー 山中光子 村中征也	8
○なごや環境大学との連携 一猿投の森づくりの会 林 信孝	3	○支部友コーナー 酒井 広	9
○「赤沢自然休養林」「御岳崩れ」の植生回復調査 一自然保護委員会 沼田満喜子	4	○カナディアンロッキーのクライミング① 一青年部一 山田利行	9
○第1回御在所ミーティング 一青年部一 梶原昌巳	6	○リレーエッセイ④ 大口瑛司	11
○『新版日本三百名山』上梓成る 西山秀夫	7	○委員会報告 13 東海Youth 山田明美 登山教室委員会 鈴木慎吾 ボランティア委員会 前田隆久	
		○会務報告 毛利邦男	14
		○ルーム日誌・会員異動 酒井 広	16
		○INFORMATION	17
		○編集後記 星 一男	18

ピアクシー峰(Pyagski : 6090m) 初登頂

(公社) 日本山岳会東海支部第 12 次インドヒマラヤ登山隊 2014

登山隊長 星 一男

東海支部第 12 次インドヒマラヤ登山隊 2014 は、6090m 無名峰に 7 月 4 日午前 8 時 30 分に全員登頂を果し、ピアクシー峰と命名した。1988 年の第 1 次・ヤン峰以来 16 座目の登頂となる。今回は、第 10 次 アッチェ峰(2009 年)、第 11 次 チェマ峰・全員登頂(2011 年)と同じラホール地区 カルチャ・ナラ流域の D 氷河源頭の未踏峰を目指す、3 度目の遠征である。

今回の遠征目的は、

- ① 遠征隊を継続して出すこと
- ② 隊員の若返りを図ること
- ③ 探検的登山を行うこと
- ④ 特にカルチャ・ナラ源流域から D 氷河の略奪点を越えて、バラシグリ氷河域に入り、踏査する。

以上が主たる狙いである。

また、初期のころから、ハイポーターとして数々の登頂に協力してくれたが、昨年落石により不慮の死を遂げた故ファテ・チャン氏宅の弔問も予定した。

マナリで登山準備中に、在インド日本大使館より電話連絡が入った。「デリーに戻ったら日本大使館にお話を聞きたいので、ぜひ来ていただきたい」とのことであった。「登頂成功」の報告を是が非でも出来るようにと気合が入る。

隊の構成

隊長：星 一男(63)

登攀隊長：鈴木美代(62)

隊員：土屋昌代(38)

登山本部・アドバイザー：鈴木常夫

行動記録

6/15 日本出発

6/17 IMF にて登山手続き L/O 面会、在インド日本国大使館へ挨拶



ピアクシー峰(6090m)の登頂ルート

6/19～6/21 マナリで登山準備、故ファテ・チャン・タクール宅弔問

6/23 マナリ→ロータン・パス→チャトルヘージュで移動の途中で道路未開通の為、馬に変更してキャラバン開始

6/25 バタル(3990m)着

6/27 カルチャ・ナラから BC(4300m)設営

7/1 D氷河に C1(4800m)設営

7/2～3 D氷河に C2(5200m)設営

7/4 6090m 無名峰に全員初登頂 Pyagski Peak

(ピアクシー峰)と命名

7/9 バタル帰着

7/10 マナリ帰着

7/14 デリー帰着

7/15 午前 IMF 訪問。リエゾンオフィサー、隊員とともに登頂報告しピアクシー峰と正式に命名決まる。

夕方 在インド日本国大使館を訪問。八木大使からのご招待で夕食会に出席する。

7/18 日本帰着

登頂記

7月4日 2時起床3時出発。

当初は、C2サイドのピークがそれであろうと思われたのだが、土屋のスマホのJPSや鈴木常夫氏に頂いたマップなども検討すると、どうももう少し上のような気がする。そこで、前日、もうひと峠こえてみた。するとそこに、いかにもな峰が現れた。そうなるとC2からの距離が少し遠い。で、この早朝出発となったわけである。

出発から2時間程、取り付き手前で休憩。取り付きは尾根末端のサイドの雪壁である。ガイド役のネギ氏とハイポーター3名でルート工作してゆく。上部の少し傾斜が立つあたりではザイルをフィックスに使い、5Pほどで稜線。最後の1Pは雪が減り、ちょっとしたガレ場になる。落石を起こしそうで下から人が来るときは神経を使う。その先はなだらかな尾根となり、ノーザイルで少し進む。全体にとくに困難なところはないが、昨日の偵察では稜線左側に雪庇が出ていたので要注意。

出発から5時間、頂上の望める小ガレ場で休憩。天気はまずまずだがセントラルピークは頂上を雲に隠していた。

荷物をデポし、ここからはコンテで頂上に9時。全員で写真を撮り、ヤシの実で乾杯した。上空一部雲はあるものの天気は上々で、周りの山々もよく見え、星隊長は偵察目的も果たせたとご満悦であった。

下山も往きに残したフィックスを使うが、リエゾンのガジェが、このピンは頼りないから絶対テンションかけるな、という。“下降器しっかりセットして体重かけないのはつらいんですけど”と思いながら、手で下降器を引き下げつつ下る。

次に降りてきた土屋は、「支点確認して、思いっきりテンションかけた」、と言った。だまされた。しかし、ことほど左様にガイド、リエゾン、ハイポーター、皆で手取り足取してくれるので、なんだかな、と思いつつも感謝して下った。

取り付きからは思い思いに戻り、この日はC2泊。

山名ピアクシーは、隠れたという意味。なかなか登る山が見えてこなかったことによる。



崩れやすい急峻な岩峰帯に向かう

今回の最大の難所は、山の確定であった。ピアクシーにはもう一つ、恥ずかしがりの女性という意味もあるらしい。今回のメンバーの二人の女は…。

(登攀隊長 鈴木美代 記)



在インド日本国大使館にて (左から枝一等書記官、鈴木、八木大使、星、土屋、大島一等書記官)

*今回の遠征には、日本山岳会 110 周年記念海外登山基金の助成を受けたことをご報告する。

なごや環境大学との連携

猿投の森づくりの会代表 和田豊司
作業運営委員長 林 信孝

猿投の森づくりの会(以下会という)はJACの所有地“OSU山桜フィールド 1.5ha”および県有林“やまじの森 150ha”と東京大学“赤津研究林 237ha”の一部を活動領域にして環境に優しい森づくりを行っており、現在100名の会員が登録されている。会員は支部員のみ限定せず、一般の方にも参加していただいている。

より多くの方に‘森づくり’を知っていただき、会の活動パワーを上げるため今年度から“なごや環境大学”と協力して講座(以下講座と言う)を受け持つこととした。

講座は名古屋市民・市民団体・企業・大学・行政が協働でつくる環境活動のネットワークである。その狙いは「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」をすすめる、行動する市民、協働する市民として「共に育つ(共有)」ことを目指して名古屋市が積極的にバックアップしている。

会が担当している共有講座は自然共生・生物多様性の区分で、キャッチフレーズは“名古屋から小1時間で行ける「猿投山」の北西山麓で「森づくり」をご一緒にしませんか”として受講(2014年度下期の講座B-54)を呼び掛けている。参加費は無料。

当講座の概要は、森に関心を持つ人達に自然観察会、森づくり作業体験など様々なイベントに参加することで、‘猿投の森’の魅力と‘森づくり’の大切さを五感で感じ取れる場を提供している。



やまじ小舎での受付風景

上期は4回の受講者累計数115名で観桜会、山桜フィールド整備作業、夏の山野草と虫たちの観察などの活動を行ってきた。



夏の山野草と虫たちの観察会の出発前説明風景



山桜フィールド整備、ウッドデッキ用材の集材

下期は会が整備した自然観察道(遊歩道)周辺の除伐や下刈りの整備、人工林の間伐体験、野鳥観察会、自然観察会などを毎月1回、計6回に亘り定例作業日に合わせて土曜日に実施。

支部の皆様への参加も大歓迎。森づくりも一緒にしましょう!!!

第6回 森の音楽祭 2014

猿投の森でオーケストラのコンサートと
森の観察を楽しみませんか!

猿投の森特設会場入口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響楽団によるチャイコフスキーの交響曲第5番の演奏を楽しんで頂きます。昼食後は希望者による森の観察会(人数制限有-先着150名)が開かれます。

開催日: 10月25日(土)

場所: 県有林山路の森(猿投の森)特設会場。但し、雨天の場合は瀬戸蔵“つばきホール”にてアルプホルンと交響楽団の演奏のみ実施。

参加費: 300円

集合場所・時間: 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅前に集合。

午前9時/瀬戸駅から猿投の森入口までは無料バスでの送迎、バス下車後、音楽祭会場まで徒歩で約2km。詳細はP17インフォメーションにて。

「赤沢自然休養林」「御岳崩れ植生回復状況」の

観察山行に参加して

自然保護委員 沼田満喜子

「赤沢自然休養林」2014年7月12日(土)晴れ

11時に参加者19名が「赤沢自然休養林」に集合した。長野県木曾郡上松町のこの地は、標高1080m以上あり、高い所は1558mあるようだ。清らかな空気と美しい緑の中で昼食をゆっくりとる。森に入る前に森のセラピー体験館で地元「NPO木曾ヒノキ森会」のガイドから



「NPO木曾ヒノキ森会」のガイドの説明

休養林の歴史と現状についての説明があった。江戸時代は、特に木曾の木が大量に切り出されて山が荒れた為「木一本、首一つ」という御布令が出され、木を守ったとのこと。明治からは大部分が「御料林」としての皇室の財産となり、戦後は国有林として管理されている。また1969年に日本最初の「自然休養林」に指定され、森林浴発祥の地として知られ森林浴の効果を発信した。

ガイドダンスを受けて意気揚々と気持ちを新たに、森の中へ歩き始めると木曾五木が並んで植えられている。ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキでどれもよく似ている。日本美林のここは天然のヒノキが美しく、ヒノキに特に多く香りの成分であるフィトンチッドが心身ともによい作用を及ぼすようだ。因みにロシア語で「フィトン(植物)+チッド(殺す)」といい、外敵である細菌やウイルスなどから木を守る為の殺菌力を持っているとのこと。途中の看板に大学の実験でNK細胞の活性化の効果が数字で示されており、森林浴から森林セラピーへのステージがあがった状況が解かりやすい。たった30分歩くだけで、その時できた免疫力がなんと1ヶ月も続くとの事で気持ちが良くなる、元気が湧いてくる、笑顔になる、という理由が頷ける。

最後にたどり着いた御用材伐採地は、ほか



の森は雨でもこの場所は太陽の光がそそぐと言われている。1985年の伊勢神宮遷宮時に御用材とされた伐採の

伊勢神宮遷宮時の御用材跡 跡地を訪れて20数年前の伊勢でのお木曳きに参加時の感動を思い出した。

このような大木が遠くから心をこめて運ばれてきたのだと。ガイドのお二人が天にもとどけとばかりの素晴らしい声で木遣り歌を詠じた。続いて全員でお腹の底から大声を出し歌った。日常ではこの様な大声で歌うことは無いので実に心に残る良き体験となった。また、ここでは実生のヒノキの幼木は虫が食べないが、植樹したものは食べるとのお話で自然界の教えのように感じた。大切な森林に感謝。2006年に日本で第1期「森林セラピー基地」の認定を受けた。日本ではまだ歴史は浅いが、今後は、木々が与えてくれるフィトンチッドが人間の心と体を元気にしてくれること、その力により予防医療や治療の場面でも生かされて行くことに期待して赤沢自然休養林を後にした。

「御岳崩れ植生回復状況」

2014年7月13日(日)曇りから雨

「御岳崩れ源頭部の観察」梅雨の晴れ間を期待していたが天候の崩れは予想以上に早い。

宿泊地の名古屋市民休暇村を8時に出発。御岳崩れ源頭部が確認できる地点、田ノ原駐車場近くの視察地に着くと、王滝頂上は見られなかったが、薄曇りの中に崩壊源頭部が確認できた。1984年9月14日8時48分に発生したM6.8の地震による山地崩壊の源頭部である。この地点は30年たった今日でも積雪時以外は明らかに識別ができる。御嶽山南西斜面の大崩壊は約3600万m³の土砂が一瞬して土石流となり時速約70kmで山麓に駆け下ったという。今

もなお痛々しく大自然へ畏怖の念をいだかざるを得ない。

「濁川・伝上川崩壊地の観察」 地震による



展望台より現在の災害跡地伝上川・濁沢をみる

大規模な土石流が発生し、それが伝上川を深くえぐりそしてバウンドし台地を飛び越し濁

沢に流れ濁川へと流れた。その時の風圧でまわりの山の木々をなぎ倒した。それにより約600ha（東京ドーム約130個分）もの荒廃地が発生したという。飛び越された下の木は助かり、その場所は高木帯として残った。反面そのまわりの所々はその後に育った木で低木帯として連なり、高台の展望台から見るとその違いがよく観察できた。この頃には雨足もかなり強くなっていたが、木曾森林管理治山管理署の職員の方は雨に濡れながらも熱心に説明され、別れ際も実に礼儀正しくきっちり

対応されて印象深く心に残った。「大自然への畏怖と畏敬の念」普段は美しく恵みの山が、ある日突然天災により崩壊し、一瞬にして土石流となり時速約70kmで木々を薙ぎ倒しながら山麓を駆け下る。人間の力ではどうする事もできない。大自然のほんの一部分に過ぎない人間。地震災害から今年で30年になる。災害現地を視察、観察して30年間の復旧・復興にあたり、このような山中で人知れず多くの困難を克服しつつ復旧治山に従事される方々や植樹などボランティアに携わる方々に感謝した。また、その人々の強い思いに大自然も見事にこたえて緑の森によみがえっているのに感動した。今回は現代人が日頃忘れがちな大自然の恵みに対する感謝の念、畏敬の念を改めて感じさせてくれるよい機会であった。

来年の新年懇親会講演 谷口けいさんに決定！

来年1月17日(土)に開催される東海支部新年懇親会に世界的な女性登山家谷口けいさんが講演者として参加されることになりました。

谷口けいさんは2008年、インドのカメット峰未踏ルート南東壁初登攀により、翌年第17回ピオレドール賞を女性として世界で初めて受賞しました。また、日本人の受賞もこの時が初めてです。

「ピオレドール賞」は優秀な登山家に贈られる国際的な賞で登山界のアカデミー賞と云われています。フランス語で金のピックルと云う意味です。

谷口けいさんはこの支部報発行時点(10月1日)で「日本山岳会学生部女子ムスタン登山隊2014」のアドバイザーとしてムスタンヒマールの未踏峰に挑戦中です。その最新情報も報告されると思います。多数の支部員・支部友のご参加をお待ちしています。

新年懇親会は下記の要領で開催いたします。
日時：平成27年1月27日(土) 17時開会
講演開始時刻等の詳細スケジュールは現在調整中です。

場所：ザ・グランドティアラ名古屋本店
(下前津高砂殿) 支部ルーム南隣
懇親会費：6,000円程度(懇親会参加者のみ)

重廣恒夫氏 来演！

(第10回支部友ミーティング)

日時：平成27年2月10日(火)19:00~21:00

場所：東海支部ルーム

講師：重廣恒夫氏(日本山岳会関西支部長)

演題：日本百名山を登る楽しみ方

重廣恒夫氏は、日本を代表する登山家の一人。特に海外登山には豊富な経歴を持つ。

JACの海外登山では、1992年のナムチェバルワ峰登山隊、及び1995年のマカルー東稜登山隊の隊長を務めいづれも初登頂、初登攀の成功に手腕を発揮している。また日本百名山早登り記録も持っていて、百名山についても造詣が深い。今回は、重廣氏の豊富な百名山登山の体験をもとに日本百名山の魅力とその楽しい登り方を語っていただく。

今回の講演会は、支部友会の主催であるが、大物講師で、しかも演題が多くの方が皆様が興味を持っている百名山である。是非支部員の皆様にも参加いただきたい。

第1回御在所ミーティング

青年部委員長 梶原昌巳

第1回御在所ミーティングを日本山岳会東海支部青年部が主催し、8月9日(土) 懇親会、8月10日(日) 基礎講習会(講師：瀧根正幹氏 支部員でガイド)の日程で御在所山日向小屋にて開いた。

今回は本格的な夏山シーズンに入る前に瀧根ガイドをお招きし、入山の心構えから基礎的なロープワークの習得を目的として東海支部青年部、東海ユースと東海学生連盟の合同で行った。



ミーティングに集結した皆さん

各地に甚大な被害をもたらした台風11号の上陸と時を同じくして、瀧根ガイド他30名の有志が御在所山日向小屋に続々集結した。瀧根講師は前日にモンブランより帰国され、大変お疲れの中、また悪天候の中、御在所山まで出向いていただいた。

9日夜/小屋にて懇親会 ゴーヤチャンプルや焼きそば、焼肉、カレーなどを、自炊慣れた学生さん達がテキパキと用意してくれた。青年部の皆は瀧根さんを囲み、持ち込んだビールサーバーで早くも酒盛りを始めた。瀧根さんからモンブランのお話やK2・アンナプルナなどのヒマラヤ8000m峰のお話を拝聴することができ、会のメンバーは刺激に成ったと思う。ヒマラヤ8000m峰など自分には、まだまだ具体性の無い話だが、この会の中から近い将来にチャレンジする者が現れて欲しいと真剣に思った。外は相変わらずの嵐で三滝川は濁流となって荒れまくっていたが、宴は関係無く深夜まで続いた。

10日/基礎講習会 朝、それぞれが起床して



講習会の模様

軽く朝食を食べた後、8時30分より講習を開始。

外は嵐なので小屋内での座学とロープ講習を行う。ロープ講習ではスリングでの簡易ハーネスの作り方やエイトノット、半マスト、オートブロックなど基礎的なロープ講習を行った。初めて触れる者は吸収しようとして目を輝かせ、すで実践している者も不備を再確認し、とても有意義な講習と成った。座学ではダイニーマやナイロンなど素材の特性を学び、登山の安全率を上げるための知識、判断、経験の大切さを学んだ。

講習の締めには、駆けつけてこられた東海支部遭難対策委員会の野呂委員長から遭難対策についての貴重な意見を拝聴した。人数の増えた青年部としても、具体的な遭難対策の編成を考えねばならないと感じた。今回は初めての合同ミーティングで至らぬばかりであったが、瀧根正幹講師はじめ、野呂邦彦遭難対策委員長、山田明美、高橋玲司両副支部長ら関係者の皆様方には温かく見守って頂き、無事ミーティングを終える事が出来た。この場をお借りして改めて御礼申し上げたい。



『新版日本三百名山』全3巻上梓成る！

支部刊行物編纂委員会副委員長 西山秀夫

7月中旬、名古屋駅前の書店に寄って、山の本のコーナーを見ると表記の本が発売されていた。先に、JACの編集者から届くのは7月下旬と聞いていたが、書店へは優先的に配本されたい。

ようやく本が上梓されたことを確認できてほっとした。御協力の諸兄には感謝する。振り返ってみれば、取材の苦労の多い本だった。奥茶臼山の取材登山も、盛夏の中を往復した。標高2200mを超えていたが、気温は高く、大汗をかいた記憶がある。中でも写真撮影に困難を感じた。奥茶臼山は長野県飯田市と大鹿村の界にある。今回は飯田市から登ったが、この山の全容を撮影する場所探しに伊那谷へ2回も足を運んだ。この山は全山針葉樹に覆われて撮影ポイントが殆どない。南アルプスの巨峰ならば縦走中でも撮影できるのであるが・・・。

気温5℃、10月下旬から11月中旬の空気が澄む絶好期でも水蒸気が揚がり、チェックすると鮮明ではなかった。結局、となりの鬼面山に登った。少しでも朝早く登頂するため前夜発でつづら折れの道を走って、地蔵峠まで行き、車中泊した。午前8時に山頂に立ったが、鬼面山は奥茶臼山の西に位置し、日の出が逆光となって黒っぽくなった。それでもシルエットははっきり撮影できてはいる。山岳写真は好条件が整うまで粘るわけにはいかない。妥協するしかない、と編者には書き送った。

奥茶臼山は登山口から往復約8時間も要した。延々樹林の中で奥秩父のような錯覚を起こす。この山は何が売りなのか、なぜ三百名山なのか、よく理解できなかつた。選定した人はよほど変人かへそ曲がりだろうに思ったものだ。今も完全に整備された登山道があるわけではない。伊那谷の一角からは特異な茶臼の山容が望めるというのが取材中はずいぞ、確認できないままになった。赤石岳や聖岳、光岳の赤石山脈直系の優秀な兄弟に比べて、背も低く、伐採跡が醜い山容。傍流でしかない、不遇な存在の奥茶臼山。私なら鬼面山を推したに違いない。

しかし、俳優にも名脇役という贅辞の贈り

かたがある。そう、奥茶臼山のキャッチフレーズは赤石岳を引き立てる名脇役とでもすれば良かったかな。主演俳優の美男美女だけでは芝居にならない。ベテランの脇役が支えて締

まりがある。山もまたカタチはいいのに背が足りないばかりに不人気のままだったりする。人気がなくともいい山はいい、ということを書きは教えてくれる。

上巻では、北海道、東北、関東の山100山、100コース、中巻は、甲信越、北アルプス、中央アルプス、下巻は、南アルプス、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州の山、103山、98コースが紹介されている。上質紙のせいでカラー写真がきれいだが、本は重たい。

300もの山座を短期間に取材、執筆、書籍化するのにはJACの豊富な人材と組織力のもたらす快挙である。どこでもやれることではない。会員の割引制度も活用して全巻そろえていただきたい。

○星 一男担当

188 木曾駒ヶ岳 189 空木岳

○渡邊泰夫担当

190 南駒ヶ岳 191 越百山

193 南木曾岳

○志水龍雄担当

187 経ヶ岳 192 安平路山

○西山秀夫担当

210 奥茶臼山 243 藤原岳

244 御在所岳



同好会紹介コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを楽しむための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会自由であることが前提です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。

古道塩の道同好会 山中光子

愛知県から長野県根羽村を歩き始めた「古道塩の道同好会」では、4月には山間部の桜や桃の花の咲き乱れる道や、踏んで行くしかない土筆の道を歩き素晴らしい春を満喫した。5月には3度目になる地元の方々との交流の為、糸魚川の塩の道起点地から小谷村へ赴いた。長い期間にわたるイベントにも関わらず、次第に参加者も増加し盛況になっている。

「古道塩の道同好会」では、役行者と木地師の研究も始めている。役行者では、吉野にある役行者ゆかりの金峯山寺(きんぷせんじ)を訪問し本尊の蔵王権現像のご開帳を見学した。蔵王権現像は過去、現在、未来の三体の像の崇高さに感銘した。東吉野歴史資料館にも立ち寄ったため、時間的には金峯山寺周辺しか回れず再訪を約束し、帰路についた。



金峯山寺(きんぷせんじ)

その会館は御池川近くの山村蛭谷にあり、冬季は閉鎖、予約制である。蛭谷の村には現在二家族しか住んでみえない。我々が見学日した日には他に見

木地師のほうでは、木地師発祥の地である東近江市「木地師の里会館」を見学した。

その会館は御池川近くの山村蛭谷にあり、冬季は閉鎖、予約制である。蛭谷の村には現在二家族しか住んでみえない。我々が見学日した日には他に見

学者があり、それぞれが歴史、用具、暮らし等の案内を受けた。会館の入場料は会館の光熱費で消えてしまい、各所の修繕は自費でまかっているとのこと。木地師の勉強も、まずは会館の見学からと始め手さぐり状態である。

スケッチクラブ 村中 征也

犬山の街を見直しました !!

昨年7月に発足したスケッチクラブ、夏・秋・冬・春のスケッチ行を重ね、丁度一回りした。

9月6日(土)は夏の行事でしたが、現役世代のことも考慮し初めての土曜日、犬山を選びました。名鉄特急で30分という便利さに改めて驚き。

木曽川畔からの犬山城は見事でしたが、画用紙に再現するのには手古摺りました。更なる驚きは、昼食の「田楽の松野屋」へ向う30分の道程。昔ながらの民家を残し、高山に負けない素晴らしさでした。山車展示館「どんでん館」と、古い呉服屋「磯部家住宅」も素敵でした。



「犬山城と鵜飼舟」

松野屋で歓談、絵の講評(わいわいガヤガヤの見せ合い)も楽しく、今後のスケジュールを協議しました。

[秋] 11月20日(木) 御在所山麓

[春] 2月19日(木) *場所協議

[春] 5月21日(木)~22日(金) 志摩半島1泊

『展覧会』1月下旬or 2月上旬

安藤七宝店ラウンジ

スケッチクラブは、絵の素養は不要、山・川・海・街・建物etc.を眺め、楽しく語り合い、山が登れなくてもたっぷり歩ける…そんな集まりです。現在19名、もっと増やしたいです !! 会費ゼロで門戸開放、気軽に声を掛けて下さい。

事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
代表…杉田博

支部友コーナー

◆支部友委員会では平成26年11月～平成27年2月に次の山行を予定している。

平成 26 年

- 11月 8日(土)鈴鹿の雨乞岳(1,238m)
☆ リーダー：伊藤康信
- 11月15日(土)裏木曾の白草山(1,641m)
☆ リーダー：酒井 広
- 11月29日(土)奥三河の三ツ瀬明神山(1,016m)
☆ リーダー：尾上 昇
- 12月 3日(水)恵那の笠置山(1,128m)
☆ リーダー：酒井 広
- 12月13日(土)湖南アルプスの堂山(384m)・
☆ 太神山(600m)
リーダー：伊藤康信
- 12月20日(土)奥三河の鞍掛山(883m)
☆ リーダー：尾上 昇

平成 27 年

- 1月23日(金)犬山の鳩吹山(314m)
☆ リーダー：酒井 広
- 1月25日(日)鈴鹿の藤原岳(1,144m)
☆ リーダー：伊藤康信
- 1月31日(土)養老の養老山(908m)
☆ リーダー：尾上 昇
- 2月 7日(土)浜松の尉ヶ峰(433m)
☆ リーダー：酒井 広
- 2月14日(土)鈴鹿の入道ヶ岳(906m)
☆ リーダー：伊藤康信
- 2月21日(土)遠州の猿見石山(1116m)・
☆ リーダー：尾上 昇

支部友会員数

平成26年9月現在／48名

◆支部友ミーティングを次のように開催する。

第9回『支部友忘年会・新人歓迎会』

一年の活動を振り返り新年に備える

日時：12月10日(水)19：00～

第10回『日本百名山を登る楽しみ方』

(詳細はP5参照)

日時：平成27年2月10日(火)19:00～

講師：JAC 関西支部長 重廣恒夫氏

支部友山行の申し込みルール

山行対象者：支部友会員，支部友委員会スタッフ

申し込み方法

- ・締切日 山行日 20 日前まで。
- ・申込先 希望する山行のリーダーに申し込む。
- ・詳細は支部友会員宛に同封されている「別紙支部友コーナー」をご覧ください。

申込先

尾上 昇

①〒467-0044 名古屋市瑞穂区柏木町 1-24

②FAX 052-832-3878

③メールアドレス onoe@onoe.co.jp

酒井 広

①〒487-0006 春日井市石尾台 6-6-4

②電話/ FAX 0568-92-6137

伊藤 康信

①〒454-0957 名古屋市中川区かの里 1-2302

②携帯電話 090-2577-8137

③メールアドレス kobitokaba@mediacat.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届けを！



専用携帯電話

080-2632-3776

カナディアンロッキーのクライミング①

青年部 山田利行

クライミング中心の生活を送るため、今年の5月に、カナダ・キャンモアへ移住しました。これから、カナダディアンロッキーを中心にクライミング情報を発信していきます。





駐車場からロブソン全景 SWルートは正面の氷河を登る

8月23日～25日 マウント・ロブソン (Mt. Robson) 登攀

カナダに来て、行きたい山の一つだったマウント・ロブソン(3954m)へ行ってきました。なかなかアルパインのパートナーが見つからないので行けるか未定でしたが、たまたま友人のKさんが自分も行きたいとの返事をくれて、行くことが出来ました。マウント・ロブソンはカナディアンロッキーの最高峰。駐車場からは、標高差3000m以上あるでかい山です。クライマーには、エンペラーフェース(標高差2200mあるでかい壁)が有名ですね。初見参の私たちは、ノーマルルートであるサウスフェース(SW)からアタックしました。

第1日

駐車場から快適なトレールをキニーレイクのキャンプ場まで歩き、そこから大きいガリーの右側をバシバシ藪漕ぎしながら、ラルフ小屋までハイクアップ。ほとんどが急登で、高度感もあるため、意外に疲れた。快適なラルフ小屋でのんびり。

第2日

朝3時、天候をチェックする。星も出ていて快晴。予報では、昼から雪となるとのことで、早めに登ることにする。



快適なラルフ小屋 貸切り

小屋から今にも壊れそうなセラックの下のトラバースを経て、リトルロブソンまでは3級くらいの岩稜帯をひたすら登る。1時間半でリトルロブソンへ。そこからアイゼンを付けて下部氷河を歩く。最初ノーロープだったが、途中氷河がバリバリ音を立てたので、慌ててザイルを付け通過する。また、岩稜帯に突き当たったので、アイゼンを外しガシガシ登る。上部のセラック帯に突き当たり、またヒヤヒヤしながらトラバースする。岩のバンドが所々凍っていて怖い。上部氷河の上に出てそこからホワイトアウト対策で、赤旗を立てながら、快適な雪壁をコンテでガンガン登って稜線へ。北面のケインルートからであろうトレースと合流し、稜線を少し歩いて登頂。小屋から頂上まで、約4時間半(標高差1400m)。

稜線からはロッキーの山々が一望。どの山も自分より下にあるのが気持ちいい。クライミングもいいけど、やっぱり山が好きなんだと実感しました。

下降は同じルートを降りる。上部セラック帯のバンドで、一ヶ所懸垂。小屋までの往復の所要時間は9時間半でした。

第3日

往路を下る。3時間くらいでキニーレイクへ降りられる。ただ、小屋から樹林帯までは、ルートファインディングに注意必要。



壊れそうなセラック帯の下をダッシュでトラバース

ロブソンからキャンモアに帰る93号線沿いには、ロッキーの高峰がたくさんある。今回初めてレイクルイーズより先をドライブした。登山の課題が出来た山旅でありました。

リレーエッセイ④

東海支部の設立の頃

評議員 大口瑛司

振り返ってみれば設立当時いた人のほとんどが鬼籍に入ってしまった、今では九州在住の石原國利さんと私だけになったと言われている。だが一柳政衛門氏（愛大山岳部元監督、名古屋山岳会員）が存命である。

東海支部の生き字引的存在であったセコさん（中世古隆司）が亡くなって、連載していた「東海地方の登山史と東海支部」が途切れてしまった。

編集長の星さんから「支部設立の頃」の依頼である。セコさんのような内容も記憶も持ち合わせていなので、私の所属する名古屋山岳会を切り口に薄れかけた記憶をたよりに拾ってみることにする。

■名古屋山岳会と東海支部

セコさんが書いているようにドンちゃん（加藤幸彦）が東海地方のクライマーに呼びかけてJGHM（ジャパン・グループ・ド・オート・モンターニュ）の組織を立ち上げた。GHMとは、憧れのフランス山岳会トップクライマーが所属するGHMのことであり、それにあやかって名付けたのである。その頭にJ（ジャパン）を付けた。

ドンちゃんが「お前も来い」と言うので参加したが同じ名古屋山岳会から5、6人もいただろうか。伏見のワダ珈琲店の集まりに誰が来ていたかあまり覚えていない。ただ「一ルンゼ（屏風岩）が四峰（前穂北尾根）にあって・・・」とか言う変なのがいる、みんな怪訝な顔をしていたのは覚えている。

JGHMのその後の展開はセコさんの支部報に詳しい。ドンちゃんがJGHMを主導していたこと、東海支部設立に際しては数集めもあって、名古屋山岳会からは大挙して日本山岳会に入会した。だからと言って東海支部の設立に名古屋山岳会が特別に功績があったということはない。

名古屋山岳会は戦前に日本山岳会に入会している。会員番号は1754番である。個人の千番台でご存命の方はいないだろう。団体でも東京の大学を除いて、千番台で今日まで在籍している団体は他にないと思う。

名古屋山岳会が日本山岳会に入会した経緯は、戦前の名古屋山岳会では結婚や出征のお祝いに「お目出度いのは当人であって、会にとってはマイナスであり、オレ達は目出度くもなんでもない」との屁理屈で、世間とは逆に宴会費用は全部当人持ちであった。

ライカを質に入れたり、苦勞して費用を捻出した人もいたようだが、芸者を挙げての宴会写真があるから古き良き時代であったのだろう。

だが戦地に赴く出征祝いにそれはマズイとして、祝い金を出すことになった。たまたま召集令状が来た当人は資産家であったので、例の宴会をしたうえで祝い金を辞退された。その時に浮いた祝金で日本山岳会に団体で入会したのである。

■跡部昌三氏と東海支部

この前後に名古屋山岳会の創立者の一人で登山道具店をしていた跡部昌三氏も個人として日本山岳会に入会された。

下って東海支部設立に際しては、この地方の古い会員（跡部氏談：東海3県で10人もいない）の人たちに協力を呼びかけたが積極的な人は少なかったようである。戦争を挟んで年齢的なギャップが大き過ぎたのであろう。

跡部昌三氏も「岳人」の編集にたずさわり、岳界には名の知れた存在であったが東海支部設立には冷淡であった。それでも誰が口説いたか設立発起人の中に名を連ねているから、それが精いっぱい協力だったと思う。

跡部氏は決して支部設立に反対ではなかったはずである。私には「戦前に支部を作ろうと考えたことがあるが、それは大変なことだと気付いてあきらめた」と言っていたくらいである。どちらかと言えば戦前から山岳文化の啓蒙のため、一般の人を対象に山岳講演会を開いたり、他の山岳会に呼びかけて名古屋山岳連盟（後の中部山岳連盟）設立に奔走したりと積極的であったことから分かる。

戦前に汎太平洋博覧会が名古屋で開かれた時には登山ブースを任せられ、愛国国体（第五回）の登山部門には精力的に働いたが、結果はお役所や日本山岳会にいいとこ取りされて「体よく、

こき使われただけだった」と嘆いておられた。以後、山岳連盟の方も名誉職に留まるのみで、他にも様々な事柄が尾を引いて支部設立には心が動かなかったようだ。

私がお店に立ち寄った折、日本山岳会に入ると話したら「どうして入るんだ。名古屋山岳会は団体で入っているから会員の権利はみな同じだ」と言われてしまった。その通り、議決権は無いが団体で日本山岳会に入る意義はそこにある。

当時は設立のための数集めの意味合いもあって、私の中では海外遠征はなかったが求められるままに入会したのである。「跡部さんはどうして入ったのですか」の問いかけに「登山家として表明（標榜）のためだ」と言われた。跡部氏は全てウエルカム的一般山岳会と異なり、紹介者2名必要な日本山岳会は質が違うといいたかったと思う。

昭和36年の東海支部設立総会には本部から日高信六郎会長はじめ織内信彦、望月達夫、山崎安治の各氏らが、東海支部側に設立の中枢を担った人たちの他、中村慶蔵氏（当時イチビキ会長。支部報136号に詳しい）、神谷真吾氏（西三河の醸造屋）、伊達忠男氏（三重山岳連盟会長）ら長老がお見えになっていたように思う。

その後の跡部氏は設立総会にも来ていなかったし、支部員であったかどうかとも定かでない。

■徳川義親氏の思い出

いつの頃からか支部の会合に藤森元夫さんの計らいで水谷商店の座敷を使うようになった。あるとき尾張徳川家19代当主の徳川義親氏がお見えになった。頭のツルリとした小柄なご老人であった。デカさん（鈴木重彦）の友人で不動産屋の関谷さん（山ヤではないが支部員）がお連れしたようだ。

虎狩りの殿様で有名であったから「虎刈り」の講演会の打ち合わせでお見えになったのかもしれない。その時の手土産が小さな缶に入ったロシア産キャビアであった。珍味とは聞いていたが耳かき1杯分しか回ってこなかったので、味よりもただ塩辛いだけの印象だった。

余談だが 時にMBで小牧山まで行くと頂上の階段わきに徳川義親氏の立派な銅像が建っている。いつも一礼してから上がることにしている。一帯は小牧市民の憩いの場となっており、たくさんの方が訪れているが、史跡小牧山

を小牧市に寄贈したお殿様に対し、残念ながら敬意を表す人を見掛けたことが無い。

■多田等観氏の話

これもデカさんの紹介で「多田等観氏」のチベットの話を聴く会があった。

本願寺からの指示で帰国するラマ僧に同行して苦労の末チベットへ入った等観氏が、情勢の悪化で帰国出来ず、長期間ラマ教の修学をすることになった。心ならずも人生の多感な時代を、近代から取り残されたチベットで過ごした体験を淡々とお話しされ、大変感銘を受けた。

恥ずかしながら多田等観氏が河口慧海に匹敵するすごい仏教学者あることを後で知った。そんな等観氏を迎える会場が名大の古びた木造の教室で、参加者が7、8人しか来ていなかった。お話が大講演会に匹敵する内容であっただけに何とももったいないと思った。

■須賀太郎初代支部長の発案

ある時、会合で須賀太郎支部長（初代）が乱れた登山用具の名称を正しいものにしようと発案された。登山教室のためだったと思う。その中で私が「リュック」は肩のことだから「ザック（袋）」にしようと提案したら温厚な須賀さんが「リュックでよろしい」と強い調子で。他の人も同様だった。エッ！と思ったが今も昔も「リュック」が一般的のようである。私だけが癖で今でも大きい物は「ザック」、小さい物は「サブ・ザック」と言っていて肩身が狭い。

その後、東海支部はHMさんが仕切るようになると会合にも居づらくなって足が遠のいてしまった。以来、私は支部の中核にいなかったため、中世古隆司さんが編者の「東海地方の登山史と東海支部」は思い出と共に知らないことも多く、毎回楽しみにしていたのに残念でならない。



日本山岳会東海支部発会式（写真提供：石岡あづみ氏）

委員会報告

【東海Youth】

8月の活動報告

1. 会員動向 (9/1現在) 25名

2. 山行報告 (～9/1)

(1) 定例山行・・・夏山

イ) 8/12～13 西穂高岳 6名

ロ) 8/15～17(縦走-ビバーク体験) 中止

ハ) 8/16～17(初めてのテント泊) 中止

(2) 個人山行・・・4件

イ) 7/25～26 燕岳 2名

ロ) 7/26～27 北岳 2名

ハ) 8/2～3 前穂高岳～奥穂高岳 2名

ニ) 8/6 銚子ヶ峰 2名

3. 山行計画 (～10月1日)

(1) 定例山行

イ) 9/13～9/15 針ノ木岳～鹿島槍ヶ岳 4名

ロ) 9/20～21(初めてのテント泊) 仙丈ヶ岳6名

ハ) 9/21 恵那山 10名

ニ) 9/24 小秀山 3名

(2) 個人山行

多くなってきたので計画書の提出を！

4. 委員会等開催

(1) 企画委員会(8月28日) 9月定例山行検討

(2) 第2回運営委員会(9/6) 16時～

イ) 夏山の反省・・・

ロ) ～12月定例山行日及び候補地選定

各自希望山行地やトレーニング内容or

講習内容を考えてくる事

ハ) 後期企画委員の選出

ニ) 第3回運営委員会開催について

実施月・・・12月

5. その他

(1) レスキュー講習会実施について・・・

4時間くらい

東海ユース代表 山田明美

【登山教室委員会】

●10月から新しく「山ガール 山ボーイ入門」講座始まる！

昨今の若い人の山への関心の高まりに伴い、今までの「山ガール入門」講座を「山ボーイ」も加えた講座に変更しました。現在募集中。

●後期(10月～3月)登山教室現地学習山行

中日文化センター(水曜日)

10月15日 裏木曾：白草山

11月19日 室生山地：倶留尊山

12月17日 紀勢：姫越山

1月21日 焼津：満観峰

2月18日 高見山地：三峰山

3月18日 鈴鹿山脈：竜ヶ岳

朝日カルチャーセンター(日曜日)

10月19日 室生山地：倶留尊山

11月16日 鈴鹿山脈：釈迦ヶ岳

12月14日 奥三河：三ツ瀬明神山

1月18日 駿河：真富士山

2月15日 鈴鹿山脈：綿向山

3月15日 奥三河：宇連山

NHK文化センター(土曜日)

10月18日 白山山系：野谷荘司山

11月15日 鈴鹿山脈：雨乞ヶ岳

12月20日 犬山：継鹿尾山～鳩吹山

1月17日 焼津：満観峰

2月21日 奥三河：宇連山

3月21日 鈴鹿山脈：藤原岳

山ガール 山ボーイ(日曜日)

10月19日 恵那山塊：富士見台～南沢山

11月9日 鈴鹿山脈：鎌ヶ岳

12月14日 美濃：誕生山～天王山

1月18日 布引山地：錫杖ヶ岳

2月15日 金勝アルプス：鶏冠山～竜王山

3月15日 鈴鹿山脈：入道ヶ岳

登山教室委員長 鈴木慎吾

【ボランティア委員会】

全国ボランティア登山(障がい者支援登山)

情報交換会のご案内

今回、視覚障がい者支援登山(ブラインド登山)を全国に普及したい」という提案があり、全国ボランティア登山(障がい者支援登山)情報交換会を東海支部で企画しました。

(詳細はインフォメーションにて)

会 務 報 告

【2014年6月常務委員会】

日時：6月25日（水）19時00分～20時30分

1. 委員会報告

①岳連(市川)：鈴鹿連絡協議会が御在所山にて行ったアンケート調査の結果、御在所山に来ているのは愛知県の人50%、三重県が25%であった。また登山届は45%の方が提出、携帯所持者は90%、未組織登山者は75%であることなどが分かったとの報告。

気象遭難対策講習会が6月29日、県スポーツ会館にて開催されるので、興味のある方は参加されたしとのこと（受講料は岳連会員500円、一般1500円）。また映画の紹介2つ、①クライマー、②Beyond the Edge（佐野総務委員長より補足説明一割引券を支部報に同封すること）。

②山行委員会（石田）：配布された山行委員会6月議事録を基に、1)山行申込締切日の前倒し、2)山行名簿に加入保険欄を設けることなどを検討している旨報告。

③猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。と同時に、猿投の森では、昨年来の手入れの甲斐もあり今年は‘アジサイ’が非常にきれいであるので、機会があれば猿投に来てほしい旨案内。また「山桜フィールドを楽しむ会」を8月23・24日に企画したので、多くの方の参加をお待ちしている旨案内。

④支部報編集委員会（佐野）：今回は表・裏表紙をカラー仕上げにし、予定通り138号は6月27日に発送予定である旨報告。

⑤青年部（梶浦）：6月6日から8日まで夏山フェスタのお手伝いをした旨報告。今後の予定としては今週末（6月28日・29日）上高地山研にて、東京青年部と上高地ミーティングを開催予定で、東海支部からは青年部7名と学生2名が参加予定である旨報告。

⑥登山教室委員会：配布された資料に基づき、5月の山行報告、6月の山行計画ならびに各教室の動向につき説明。中日登山教室の生徒数が13名と少ないことによりバス代での赤字が続いているため、支部員・支部友会員も参加できるようにすることにした旨報告。ついては、募集方法などにつきチラシを支部報に入れる旨報告あり。また9月25日に登山教室前期指導委員報告会開催予定とのこと（当日予定されて

いた図書委員会を他の日にずらせて頂く事でした承）。

⑦自然保護委員会（南川）：配布された6月度議事録をもとに第4回自然観察山行の申し込み状況、森の勉強会の準備の進捗状況、猿投の森の調査状況につき報告。自然観察山行については現在21名と多くの参加申込があり、社会性のあるテーマへの関心の高さが示された旨報告。また6月15日実施された、伊吹山のHat-Jの清掃登山へ参加した折、ひどい猪の食害の実態を体験した旨報告。猿投OSUフィールド付近の動物・両生類調査の過程で河床に巨大スラブが発見された旨報告。

⑧支部友委員会（酒井）：配布された6月議事録をもとに5月山行結果、6月の山行状況、朝明茶屋での支部友ミーティングの準備状況など報告と同時に、夏山フェスタに於ける広報活動の結果、支部友会の活動に興味のある方が約40名いたと同時に、6月11日開催の支部友ミーティングに9名の特別参加を得た。内3名が、その場で支部友会への入会申込をしたとのこと。

⑨インドヒマラヤ：佐野・小川両氏より、星隊長・インドヒマラヤ遠征隊の現在の状況報告あり。想定したより雪が多く、車での移動を予定していた区間が、馬での移動に変更となった部分があったが、全員元気である、他はおおむねスケジュール通りに進行している、7月2日～6日の登頂予定は変わらずとのこと。

⑩ボランティア委員会（前田）：配布された資料をもとに11月開催予定の「全国ボランティア登山（障害者支援登山）情報交換会」の準備状況・今後のスケジュールの説明。本部から高原常務理事（総務担当）が出席して下さることになった旨報告。

⑪森の音楽祭（毛利）：現在ポスター及びチラシの原稿を作成中で、7月の実行委員会にて内容決定し、7月末までにポスター・チラシ共に完成させる方向で準備中である旨報告。

⑫夏山フェスタ（毛利）：今年の来場者は6650人を数え、昨年より5割増となったので来年も開催することとなった旨報告。来年の開催は6月20日・21日を予定、今年のフェスタについての詳細は、支部報に報告を寄稿しているので、ご覧になってほしい旨要請。

⑬本部総会について（小川支部長）：森会長挨

摺の概要報告。支部活性化助成金については、広島支部、東京多摩支部に加え東海支部へそれぞれ20万円の助成金を出すこととした旨報告があった。出版事業の「300名山」の出版が7月末にずれ込んでいる旨報告。上高地の飲料水について問題が出ている（現在善六沢から水を引いているが荒れてしまったので清水川から水を引く必要がでており、移転費用は組合加入費160万＋工事費510万円が必要との報告であった。本部として今後は、支部活動とユースクラブの活動に注力していきたいとのことであった旨報告。

出席者： 中世古、野呂、小川、柴田、佐野、和田、市川、石田、酒井、高橋、梶浦、鈴木、南川、前田、毛利

欠席： 尾上、箕浦、山田、星、加藤、井上

【2014年7月常務委員会】

日時：7月23日（水）19時00分～20時45分

1. 支部長挨拶

夏山シーズン到来でこれから山に登る機会が多くなると思うが、くれぐれも雷に気を付けると同時に事故にならないようにしてほしい旨挨拶。又インドヒマラヤ登山隊が未踏峰登頂に成功し無事帰国したので、後程、星隊長より報告を頂く予定である旨紹介。

2. 委員会報告

①支部友委員会（酒井）：配布された資料を基に山行報告と山行予定、第6回支部友ミーティングの結果報告と第7回及び第8回の準備状況報告ならびに新入会員オリエンテーションの予定について報告。加藤委員より支部員は支部友ミーティングに参加できるか？との質問に対し柴田副支部長より、以下の回答 — ‘席に余裕がある場合は、支部員も参加できる。従って参加できるか否か、支部友ミーティングの担当者に問い合わせをして欲しい。’

②山行委員会（石田）：9月に予定していたリーダー会議は、今のところ、特に議論すべき点が無いので見合わせる予定である旨報告。

③亀の会（加藤）：配布された資料を基に月例山行および自主山行の予定について報告。7月26日～29日に予定している富士山登山は青木ヶ原（1合目）から山頂を目指し、5合目と山頂に宿泊予定とのこと。10月に予定している会津駒ヶ岳山行では1日のバスの運転距離が500kmを超えるため運転手を2名手当てする必

要がある旨報告。会員数は7月18日現在57人とのこと。

④猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。緑推からのH26年度の助成金110万円が決定。また8月23・24日に予定している「山桜フィールドを楽しむ会」に時間のある方は参加して欲しい旨案内。7月26日（土）の定例作業の後、瀬戸消防署の指導で救急救命講座を開くので、興味のある方は参加して頂きたい旨案内。

⑤東海ユース（山田）：配布された資料を基に、会員動向、山行報告、山行計画、装備購入などにつき報告。会員については25名と多くなっているため、1年間活動実績のない場合は、休会ないしは退会する旨規約変更した旨報告。

⑥支部報編集委員会（星）：8月第1週に委員会を開催し、次号の内容につき打合を行う予定、8月は常務委員会が開催されないため、記事の依頼はメールで行う予定である旨報告。

インドヒマラヤ遠征の報告 — 6月15日出発から未踏峰登頂並びに7月18日帰国までのおおむね計画通り進んだ旨報告。同時にマナリに到着した折インドの日本大使館より、帰りに大使館によって欲しい旨依頼を受けたが、このことが、未踏峰登頂に対する良い意味でのプレッシャーともなったとの事。この席で皆さんに回覧している写真集は、デリーの大使館にて、遠征の報告とすべく用意したものであるとのこと。またマナリからは当初車での移動を想定していたが、例年より残雪が多かったため、馬での移動に切り替え40kmを3日間かけて移動した。このことが逆に高度順化の意味では非常に良かったとのこと。また今回IMFの助成でリーダーズキャンプを行っていることが分かった。500ドル/人を払えば、残りの費用はIMFの方で払ってくれるので、東海支部から来年当リーダーズキャンプに参加することを検討しては如何かの提案有。日本大使館から夕食の招待を受けたことは大変名誉なこと。3時間ほど大使と歓談した旨報告。

⑦青年部（梶浦）：配布された資料を基に、山行の報告と同時に、登山における基本的技術の習得と懇親を深める目的で8月9日・10日に御在所ミーティングを予定しており、滝根氏に講師をお願いしている旨報告。青年部新規会員確保に尽力している中で、青年部の活動に興味を持つ方は沢山いるが、入会するか否かの段階で入会費・年会費がネックとなって入会をあ

きらめる人が大多数、対象の人は主に 30 代後半の為、現在の 26 歳以下に対する年会費優遇が適用されない状況であるので、対応策を検討して欲しい旨依頼。この件についてはどんな対応が可能か別途検討してみる事となった。8 月 6 日～12 日開催予定の日中韓学生山連登山には東海支部から 3 名派遣することとなった旨報告。山田副支部長より、登山教室用として 6 人用テント購入したので、青年部の方で必要であれば使用してもらって結構との発言あり。

⑧登山教室委員会（鈴木）：配布された資料に基づき、6 月の山行報告並びに 7 月・8 月の山行計画と各教室の動向につき説明。また、本部から依頼の「親子登山おすすめコース」の紹介原稿については、愛知の 1 山を前田担当、三重の 1 山については鈴木が担当し、8 月末までに原稿提出の予定。また指導員は現在 3 人体制だが、不測の欠席に備え 1 名増員し 4 人体制とする旨報告。

⑨ボランティア委員会（前田）：配布された資料を基に 11 月に開催を予定している全国ボランティア登山情報交換会の参加状況・準備状況・開催内容について報告。32 支部のうち 9 支部から出欠の返事入手しそのうち 4 支部（埼玉支部、京都・滋賀支部、四国支部、東海支部）が参加予定となっている。

⑩森の音楽祭（箕浦）：共催申請の為、中日新聞社と後援申請の為愛知県林務課を訪問。中日新聞社は担当者が長期休暇中の為代理の人と面談したが特段問題はなさそう。但し今年から有料化したこともあり愛知県の後援については不透明の状況。したがってポスター及びチラシの印刷手配は両社の最終返事あるまで保留となっている旨報告。

⑪近鉄御在所山の家を譲り受けるか否かの件（佐野）：事業企画委員会にて検討委員会を立ち上げ、検討を進めることにした旨報告。

出席者： 尾上、箕浦、野呂、小川、柴田、山田、高橋、佐野、和田、市川、石田、酒井、梶浦、鈴木、加藤、星、前田、毛利

欠席： 中世古、南川、井上

【2014 年 8 月常務委員会】

休会でした。

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

6 月	
2 日 (月)	支部友委員会
3 日 (火)	県岳連
4 日 (水)	TNCC / 青年部
5 日 (木)	写真展 / 支部報編集会議
6 日 (金)	本部常務理事会
9 日 (月)	登山教室委員会
10 日 (火)	支部報編集会議
11 日 (水)	支部友ミーティング
12 日 (木)	自然保護委員会
13 日 (金)	古道塩の道
17 日 (火)	図書委員会
18 日 (水)	山行委員会 / 総務委員会
19 日 (木)	東海学生連盟
22 日 (日)	東海ユース
24 日 (火)	猿投の森運営委員会
25 日 (水)	常務委員会
27 日 (金)	支部報発送作業
7 月	
1 日 (火)	県岳連
2 日 (水)	TNCC / 青年部
3 日 (木)	写真展実行委員会
4 日 (金)	古道塩の道
5 日 (土)	東海ユース
6 日 (日)	学生連盟
7 日 (月)	支部友委員会
10 日 (木)	自然保護委員会 / 支部報編集会議
11 日 (金)	森の音楽祭
14 日 (月)	登山教室委員会
15 日 (火)	ボランティア委員会
16 日 (水)	山行委員会 / 総務委員会
17 日 (木)	東海学生連盟
18 日 (金)	亀の会運営会議
22 日 (火)	図書委員会 / 猿投の森運営委員会
23 日 (水)	常務委員会
8 月	
1 日 (金)	古道塩の道
4 日 (月)	支部友委員会
5 日 (火)	県岳連
6 日 (水)	TNCC / 青年部
7 日 (木)	写真展委員会
12 日 (火)	支部友ミーティング
14 日 (木)	自然保護委員会
18 日 (月)	図書委員会 / ユース山行打合せ
18 日 (火)	ボランティア委員会
20 日 (水)	山行委員会
21 日 (木)	東海学生連盟
22 日 (金)	森の音楽祭運営委員会
27 日 (水)	山行打合せ
29 日 (金)	山行ミーティング

会員異動

入会：

土井 竹美(15541)北名古屋市熊之庄新宮 103-3B
090-3264-6870
飯島実千代(15545)安城市横山町寺下 1-5-15
0561-38-0831
早川 博(15578)春日井市藤山台 10-21-15
0568-91-4827

退会：

前田 咲子(14932)

先号支部報の支部友コーナーにミス
プリアがありました。
小津権現山山行の10月26日(土)と
ありますが、正しくは26日(日)です。
訂正しお詫びします。

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

△東海支部新年会のお知らせ△

日 時 平成27年1月17日(土)
場 所 ザ・グランドティアラ名古屋本店
(下前津高砂殿) 支部ルーム南隣
会 費 6000円程度(懇親会参加者のみ)
◎本年は世界的女性登山家谷口けいさんの講演を予定しています。
◎出欠等の詳細は次号(平成27年1月発行)にご案内します。支部員だけでなく、支部友の方もご参加ください。

△年次晩餐会のお知らせ△

本年度の日本山岳会年次晩餐会は12月6日(土)に東京新宿の京王プラザホテルにおいて行なわれます。昨年とはホテルが異なりますので、ご注意ください。詳しい内容は未定ですが、多数の方の参加をお願いします。会員の方には本案内状が来ますので各自お申込み下さい。

総務委員長 佐野忠則

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第6回森の音楽祭2014を開催します。皆さんの参加をお待ちしています。

内容：猿投の森特設会場入口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響楽団によるチャイコフスキー作曲 交響曲第5番の演奏を楽しんで頂きます。

昼食後は希望者による森の観察会(人数制限有-先着150名)が開かれます。

開催日：10月25日(土)

場 所：県有林山路の森(猿投の森)特設会場(雨天の場合は瀬戸蔵“つばきホール”にてアルプホルンと交響楽団の演奏のみ実施)

参加費：300円

集合場所：名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅前

時間：午前9時より

瀬戸駅から猿投の森入口までは無料バスでの送迎、バス下車後、音楽祭会場まで徒歩(約2km)

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会宛)又は、e-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

問合せ先：森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

【自然保護委員会からのお知らせ】

今年も恒例の森の勉強会が計画されました。詳細は参加申し込み者に別途ご案内します。

・第18回森の勉強会(3支部共催)
東海支部主幹、関西支部、京滋支部

日時：11月8日(土)～9日(日)

場所：猿投の森・東大演習林

参加費：18,000円(交通費は各自)

予定人員 30名(先着申し込み順)

締切日：10月10日

・自然保護全国集会(広島)

日時：11月22日(土)～23日(日)

問い合わせ及び申し込み先 南川陸夫

TEL&FAX 0569-42-5382

E-mail:r-minami@ktf.biglobe.ne.jp

自然保護委員会 南川陸夫

【ボランティア委員会】

全国ボランティア登山(障がい者支援登山)

情報交換会—視覚障がい者支援登山を

中心として—のご案内

今回、ボランティア委員会メンバーでもある山田弘さん(全盲の登山者)から、「機会がなく登山したくてもできない視覚障がい者支援登山(ブラインド登山)を全国に普及したい」という提案がありました。それを受け、障がい者支援登山を実施・計画されている他支部の皆さま

と共に、広く普及のきっかけになればという思いから、全国ボランティア登山(障がい者支援登山)情報交換会を東海支部で企画しました。

東海支部員でご関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

○主旨 視覚障がい者支援登山を全国に普及させるきっかけとして、他支部の方々と、視覚障がい者支援登山以外の各種支援登山も含め情報交換会を行う。

○対象 視覚障がい者支援登山を含めた各種登山弱者支援登山を現在実施、または計画されている各支部ご担当者の方、及び、視覚障がい者支援登山に興味をお持ちの各支部ご担当の方。

○時期 平成26年11月8日(土)・9日(日)
11月8日(土) 14:30 東海支部ルーム集合

15:00 情報交換会 於・東海支部ルーム
第一部・各支部支援登山実例報告
第二部・視覚障がい者との登山について

18:00 懇親会 場所・未定
11月9日(日) 08:00 JR金山駅集合の後、08:15 バスで東海支部の視覚障がい者支援登山に参加。行き先は、猿投山(歩行時間4時間位のコース) 16:30 JR金山駅解散

○費用 支援登山参加費:バス代込みで1200円(予定)

申込締切め切りは、10月20日(月)といたします。

○お問い合わせ・参加の申し込みは、
ボランティア委員会 前田まで
Mail:maedaiq@gmail.com、

【写真展実行委員会からのお知らせ】

<支部報7月号掲載記事への訂正と追加>

1. 東海支部報7月号の第14回写真展の報告記事中、第14回写真展を紹介する「中日新聞」記事を掲載すべきところを誤って第13回写真展に関する記事が掲載されてしまいました。ご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。なお、第14回写真展を紹介した「中日新聞」の記事は東海支部のホームページの写真展実行委員会のページに掲載しましたのでそちらをご覧ください。

2. 支部報の編集方針により「会計報告」は掲載されないことになりましたので、出展数78点、収入1,110,324円から写真パネル作成費、会場費などの経費を引いた残金から出展作品1点あたり1,500円を返金した結果49,203円

の黒字となったことをここに報告します。なお、剰余金は第15回写真展の会計へ繰越させていただきます。

<写真展実行委員会主催の山行ご案内>

登攀・歩行を少なくして写真撮影や自然観察の出来る自由時間を多くとり山の景色や花などのきれいな場所への山行を計画しています。立派な機器は不要です。コンパクトデジカメや三脚無しでもOKですし、撮影はせずにきれいな景色を楽しみたいだけの方でも歓迎です。是非ご参加ください。

-
- ① 裏剣、仙人池、黒部下の廊下
 - ・月日:10月8日~12日 4泊
 - ・交通手段:公共交通機関
 - ・宿泊:山小屋(剣沢小屋、仙人池、宇奈月温泉など)
 - ・撮影対象:裏剣(仙人池、池の平)
 - ・備考:縦走、若干体力が必要。
 - ② 白馬八方尾根
 - ・月日:11月6日~8日 2泊
 - ・交通手段 自動車・ロープウェイ
 - ・宿泊:八方池山荘
 - ・撮影対象:新雪の白馬岳ほか
 - ③ 上高地・大正池
 - ・月日:12月末 2~3泊
 - ・交通手段:自動車
 - ・宿泊:大正池ホテル
 - ・撮影対象:雪の大正池、上高地、穂高連峰、霧氷
 - ④ 西穂独標
 - ・月日:2月 1~2泊
 - ・交通手段:自動車・ロープウェイ
 - ・宿泊:西穂山荘
 - ・撮影対象:雪の穂高連峰

*参加希望の方は、井上(090-6590-6669、hinoue@sb.starcat.ne.jp)または、写真展実行委員までお問合せください。

写真展実行委員会 井上 寛之 記

編集後記

天候が不順な中でも、東海支部の諸活動は活発で疲れを知らないようだ。安全登山を心掛け、後世に残すべき生態系の保全にも注意した活動を伝えたいと思う。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて45年

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) www.alpine-tour.com



ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしております!

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。



- | | |
|-----------------------|-------------------------------------------|
| 名古屋店 Outlet | 愛知県名古屋市中区栄3-18-1
ナディアパークロフト 6階 |
| 長久手店 | 愛知県長久手市片平1-901 |
| 名古屋みなと店 Outlet | 愛知県名古屋市港区品川町2-1-6
イオンモール名古屋みなと 3階 |
| 各務原店 | 岐阜県各務原市那加堂場町3-8
イオンモール各務原 2階 |
| 長島店 Outlet | 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階 |
| 鈴鹿店 | 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2
イオンモール鈴鹿 1階 |
| 新静岡店 | 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1
新静岡セノバ 4階 |

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス
☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目21-21丸の内東桜ビル1004号
TEL : 052-961-6506
FAX : 052-961-6507
URL : <http://www.nygs-office.com/>
facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・ビル清掃管理事業
- ・車両運行管理事業
- ・労働者派遣業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>